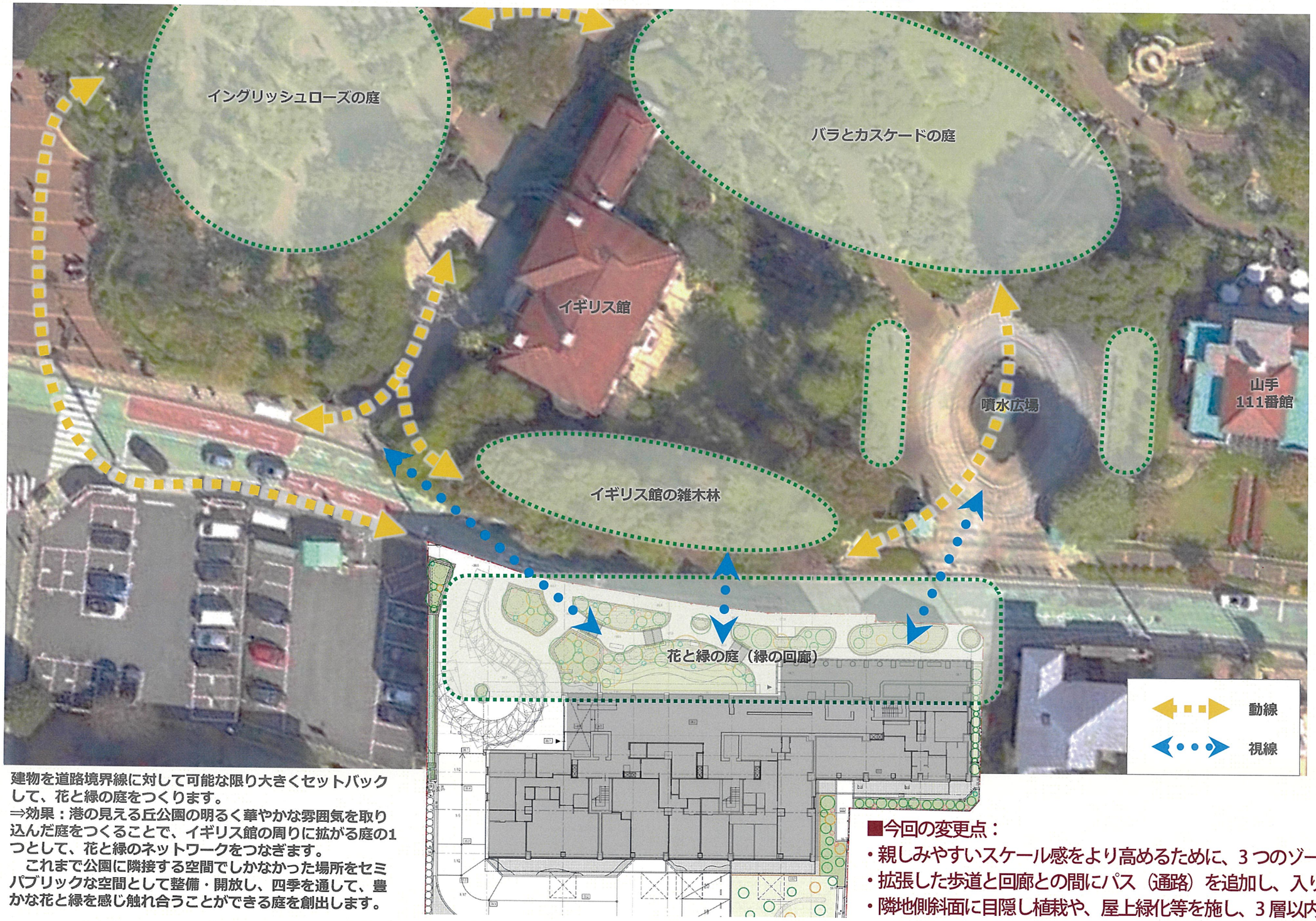
■前回都市美での意見：
・前面歩道から敷地内への入りやすさを高める工夫を検討する事。
・長大な立面の印象を和らげるために、分節の工夫を検討する事。
・隣地側（C 敷地側）からの見え方として、車路や建物での高さの印象が過大とならないようにすること。



建物を道路境界線に対して可能な限り大きくセットバックして、花と緑の庭をつくります。
⇒効果：港の見える丘公園の明るく華やかな雰囲気を取り込んだ庭をつくることで、イギリス館の周りに拡がる庭の1つとして、花と緑のネットワークをつなぎます。
　これまで公園に隣接する空間でしかなかった場所をセミパブリックな空間として整備・開放し、四季を通して、豊かな花と緑を感じ触れ合うことができる庭を創出します。

■今回の変更点：
・親しみやすいスケール感をより高めるために、3 つのゾーンで外観を分節しました。
・拡張した歩道と回廊との間にパス（通路）を追加し、入りやすさに配慮しました。
・隣地側斜面に目隠し植栽や、屋上緑化等を施し、3 層以内に見えるように工夫しました。

景観形成の方針　全体配置図と手法

B 敷地

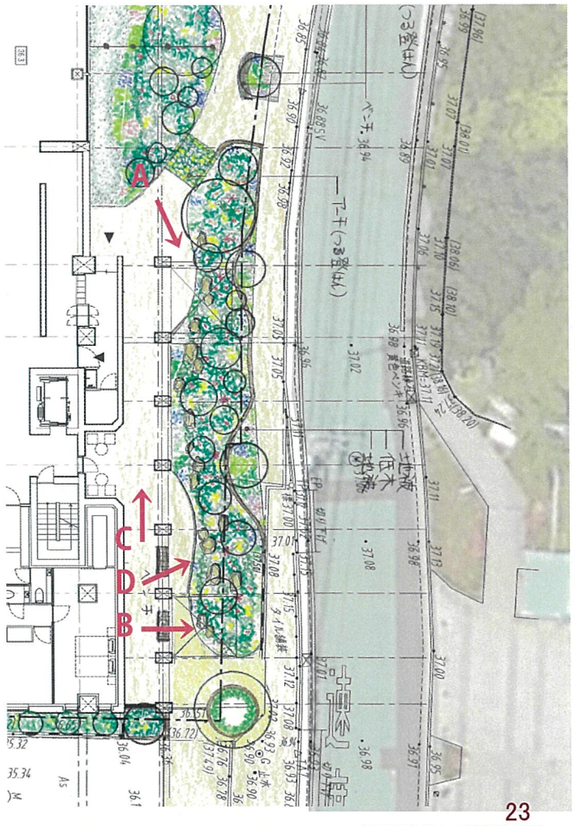
B 公園の噴水広場に正対する部分には、山手地区でよくみられるようなアイアンのベンチを設置し、公園の拡張の様に景観に寄与します。

C 回廊の中央付近にはニッチ状の休憩スペースを設けます。通過するだけでなく、植栽を楽しみながら休憩することが可能です。

回廊からの眺望
image

A 前面道路側の歩道とは別に、計画地内の庭を楽しみながら回廊を通る歩行者動線を創出します。

D イギリス館前の高い塀が目立ちすぎないよう、近景→中景→遠景　と視線のレイヤーを考慮します。



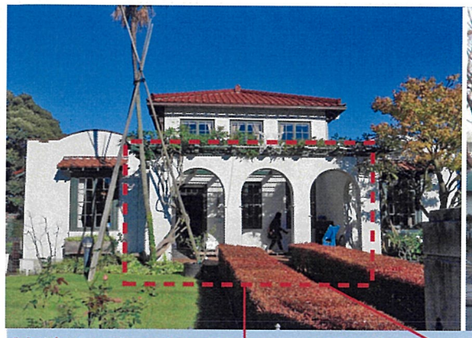
四季それぞれの植物を楽しめる回廊を、噴水広場に隣接して
計画地内の建物ピロティ部分に整備します。
歩くことも、たたずんだり休むこともでき、生活動線に潤いをもたらします。噴水広場を望む視点場も整備し、敷地内外の景観に寄与します。

植栽計画として、遠景が魅力的なポイントでは多年草の花や低木を中心とし、
道路対面に塀があり奥行きが望めないポイントでは、計画地内にて低木に加え中高木でも修景いたします。

景観形成の方針　全体配置図と手法

B 敷地

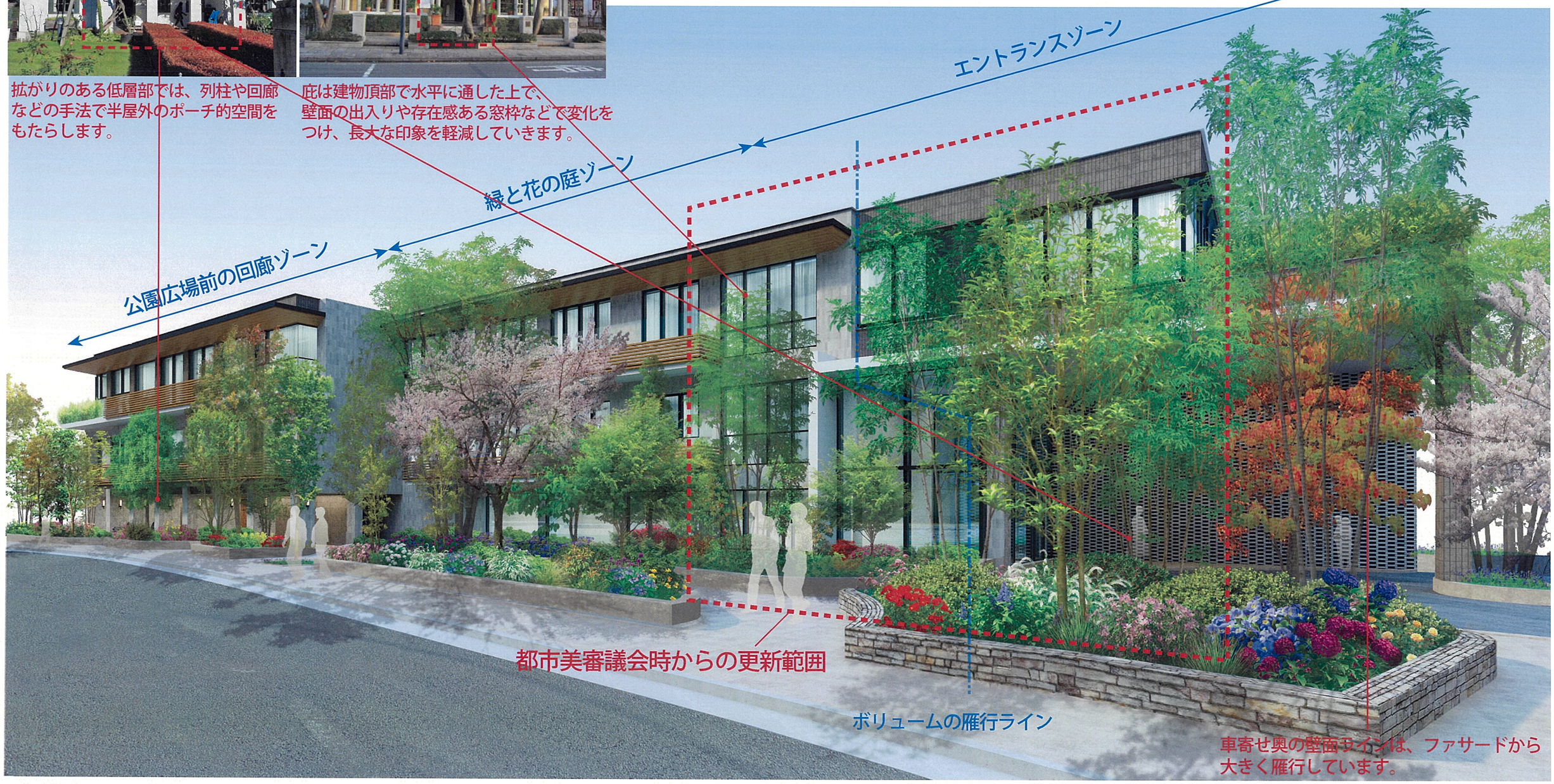
比較的大規模なタイプの山手洋館を参照します。



拡がりのある低層部では、列柱や回廊などの手法で半屋外のポーチ的空間をもたらします。

庇は建物頂部で水平に通した上で、壁面の出入りや存在感ある窓枠などで変化をつけ、長大な印象を軽減していきます。

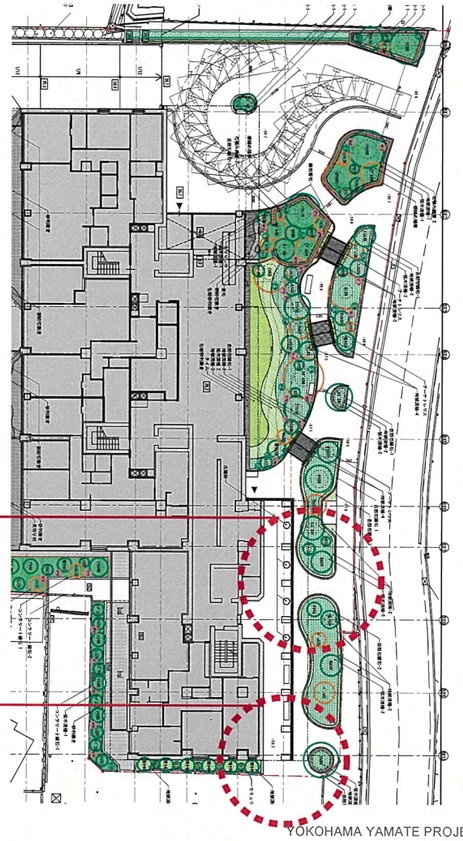
■前回都市美からの変更点：親しみやすいスケール感をより高めるために、エントランスゾーン / 緑と花の庭ゾーン / 公園広場前の回廊ゾーンの 3 つに外観デザインのテーマを設定しました。



■建物を雁行させることにより、建物を分節し長大な存在感を抑えます。
　→効果：山手エリアの文化となっている、邸宅のスケール感を守ります。外構や建物デザインのゾーン分けを行っています
■B 敷地では、向かい合う「港の見える丘公園」内に立つ洋館の意匠性を尊重します。デザインコードを抽出し、現代のセンスに解釈して建物外観に取り入れます。
■緑に包まれる低層部と、最上階で素材などを切り替え、スケール感を水平方向、高さ方向とも親しみやすくします。ファサード側には建築緑化を実施し、平面だけでなく立体的に植栽を展開します。

景観形成の方針　全体配置図と手法

B敷地

前回都市美時の案

今回の更新案